

一般口演 2

(6) 新しい反応点の臨床的意義に関する研究
—ランダム化比較試験による臨床的有効性の検討—○渡辺 勝之¹⁾, 篠原 昭二¹⁾明治国際医療大学伝統鍼灸医学教室¹⁾

要 旨

Key words ランダム化比較試験, 反応点, 経穴, VAS, SF8 (健康関連 QOL 尺度)

【緒言】

反応点は経穴のように固定的に存在するのではなく, 病態に応じて発現または消失する. 本研究ではこの新しい反応点に焦点を当て他施設・鍼灸師との VAS の比較およびランダム化比較試験を実施することにより反応点の臨床的有効性を検討した.

【方法】

1) 3 施設 4 名の鍼灸師で, 新しい反応点に適した鍼灸施術前後の VAS 評価を比較検討した. 2) 明治国際医療大学附属鍼灸センター来院患者を対象として, ランダム化比較試験により反応点・非反応点・経穴への 4 点刺激直後の VAS および 10 点施術後の経時的变化 (VAS, SF8: 健康関連 QOL 尺度; 身体的・精神的評価) を検討した.

【結果】

1) 訓練を積み一定レベル以上の技能を有する鍼灸師 4 人において, 施術前後の VAS 評価は同様な変化を示した. 2) 基礎疾患や主訴の種類に関わらず, 全主訴 116 名において $57.0 \pm 26.6 \text{ mm} \rightarrow 33.3 \pm 28.4 \text{ mm}$ と有意 ($p < 0.01$) に低下を示した. 3) 非反応点と反応点への刺激を群間比較した結果, 反応点刺激の方が有意 ($p < 0.01$) な改善を示した. 4) 経時的变化では, 反応点刺激後の VAS 評価と SF8 の身体的評価において有意 ($p < 0.05$) な改善を示した. しかし, 精神的評価では有意な変化は認められなかった.

【考察】

新しい反応点は訓練により誰もが鑑別可能であり, 適刺激により同様な臨床的有効性を得ることができる. また適刺激により, 病態に応じて発現している反応点は消失する. その結果, 疾病は治癒の方向に向かうことが示唆された. ランダム化比較試験により, 非反応点 < 経穴 < 反応点の順に臨床的有効性が高いことが明らかとなった. 今後, 病態に応じて発現する反応点を基礎とした鍼灸医学を構築して行きたい.